



慶應義塾大学ビジネス・スクール

バッテリー業界とリサイクル

5

新産業電池株式会社の環境保全部長である村上氏は、インタビュアーの質問に対して次のように説明した。

「自動車バッテリーのリサイクルにかかるコストは、回収費用や解体、再精錬費用など決して小さくはありませんが、バッテリーを製造・販売している以上、これらのリサイクル費用の負担も当然のこととされています。しかし、本当に我々自動車バッテリーメーカーだけが負担しなければならないのでしょうか？」

10

例えば、自動車バッテリーの原材料となる鉛の再精錬費用を考えてみて下さい。鉛は、原料となる鉱石から高純度な鉛にするために精錬を行って初めてバッテリーに利用できるようになります。そして、一度精錬した鉛をリサイクルのために再精錬するのも、初めて鉛を精錬する設備で同じように出来ます。

15

我々自動車バッテリーメーカーは、回収したバッテリーに入っている使用済みの鉛を、鉛を精錬・販売している企業に引き渡して、同時に再精錬手数料を支払っていますが、この手数料は特にバッテリーの回収業者の経営を継続させるためのものです。従って、儲けの少ない回収業者が鉛のリサイクルのために新たに増設した設備のための充当という意味もあります。

20

しかし、処女鉛を精錬している企業は、本来リサイクルのための新規設備投資が必要ないので、我々自動車バッテリーメーカーから再精錬手数料をもらう必要はないのです。逆に言えば、再生鉛を自前の処女鉛の精錬用の設備で処理することで、鉛の精錬企業はリサイクル費用の一部を負担できるはずなのです。」

25

1. 事例の経緯

本事例は慶應義塾大学経営管理修士の石川禪が同大学の姉川知史の指導の下に、クラス討議の資料として作成したもので、経営管理の適否を例示することを目的としたものではない。

30

©1998, Keio University, Graduate School of Business Administration